

# 自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入）

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	あったかいごふるかわ
(ユニット名)	せせらぎ
所在地 (県・市町村名)	宮城県大崎市古川駅前大通 6-3-8
記入者名 (管理者)	菅原さよ子
記入日	平成19年12月27日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている</p>	職員全員が本人を尊重したやさしい関係が信頼関係を築き本人が安心した生活が出来る、そして地域の方々に顔なじみになっていただくように地域行事の参加や外出を勧めている、12月より様式を変えた記録様式で毎日のサービスの質の確認と評価を行なっている	○	近隣の名所などへの独自の散策マップを利用者様職員、地域の方の参画いただいて作成し、日替わりで(小さな散策会)散歩を行なっていきたいと考えている
2	<p>○理念の共有と日々の取組</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝管理者を中心にして朝礼を行いその日の予定を打ち合わせをしホームの方針を発声し確認している、また、その日の天候をみながらドライブ外出、買い物外出の実行を実現するための検討を行っている、利用者様の様子でも実行できる雰囲気にもなっている		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	毎月、職員から日々の生活の様子をお便りでお知らせしているほか、地域行事に参加する場合は家族様に直接連絡をして説明と参加の相談を行なっている。地域には夏祭りの呼びかけなどいつでも見学や相談の受け付けをしている旨回覧をして回している		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<p>○隣近所との付き合い</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いができるように努めている</p>	散歩、スーパー、理髪所、美容院はいつも同じところを利用しその際、世間話のほか店の方に常の御礼を言い、ご近所だった方にお会いしたときは必ず職員は利用者様と知人が遊びに来ていただけるよう声を掛けている。町内会の方々には災害時の協力をお願いしている	○	利用者様と仲良しになって漬物を手にお茶を飲みに着ていただけるような関係になれるまでになりたいと考えている
5	<p>○地域との付き合い</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域自治会に加入しており毎年総会に出席、地区一斉清掃、老人会、地区の研修旅行、地域の神社催事などにも職員と利用者が参加し地域の方からも普通の住民と同様に声を掛けていただいている		

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の方々に呼びかけてホームの見学と認知症についての研修会を実施した</p>	○	<p>近隣のにんちしょうを抱えている家族様が本人と遊びに来られるようなエリアになればと考えている</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>12月から評価を記録する様式に変更になった。毎日評価している、</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取組</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>二ヶ月に一回実施してホーム内の利用者様の様子を行事報告にあわせて行なっている。地域の行事について紹介していただき参加できるような内容である事には参加出席していか伺って外出や地域の方々とのふれあいが持てるような機会を増やしている。</p>		

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>課題が出たときは直接相談をしている、市町村の計画している研修会などに参加している。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>職員全体会議で青年後見任制度について研修し、また、外部研修「高齢者虐待防止」研修に参加している。現在、別のユニットの利用者様のお一人が成年後見制度を利用されている方が居る</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>今年度、二回の「高齢者虐待予防研修」に参加し職員会議でも研修報告も行なって防止に努めている。</p>		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時契約内容説明、重要事項説明、その項目ごとに疑問な点などをお聞きしながら納得がいくようにしている。前もって契約書をお渡しして熟読して頂く場合もある。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者が居る事務所にはいつでも利用者が入って新聞を読んだりボードを見たりくつろいでいる。外出した際など本人の思いを現れることもあるため即職員に申し送り検討している。市役所から任命されたあんしん介護訪問相談員の訪問を受け入れており、年二回、利用者様と話をさせていただいている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者様の生活ぶりは「おあしす新聞」と担当者が月一回お便りを書いてお知らせしている、心配される利用者様や急変された利用者さまについては即時の連絡ほか管理者から経過の報告書も送付、金銭については金銭管理規約を設けており、月一回家族様面会時確認記録をさせていただいている</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>現在は苦情等直接受けては居ないが、受付窓口の案内のチラシは玄関先に張ってお知らせしている</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎日の朝礼の時にその日の出来事や行事について話し合い職員の意見を聴き安全に実行できるように勤めている。月一回の会議も行なっている。必要に応じて個別面談も行なっている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>本人の個別対応では本人が安心していただけるように担当あるいはより経験がある職員があたるよう心がけ話し合いが随時行なわれ本人本位をしている事務職員なども協力している</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>止むを得ず職員の移動が必要な場合はかくユニットのリーダーが招集され本人のリスク、他の利用者様の影響などを時間を掛けて検討している、他には常に職員がユニット間を気軽に行き来を行い利用者様にとって普段から顔見知りの関係を作るようにしている</p>	<p>○ 若い職員の離職があり職員不足を早期に欠員が補充され職員同士がゆとりのある支援が出来るようになればいいと考える</p>

様式8

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員会議でも短時間ではあるが必要な介護支援、認知症などの注意事項など話され他に、職員の経験や年数を考慮して全員が介護研修に参加している</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	<p>近隣の同業者との交換研修、相互研修で他施設の管理者の訪問をうけたり、お世話になったホームの方を行事へ招待も行ない、なじみの交流が続いている、利用者さまのケアについて参考にしたり本所のいいところなども確認している</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>業務現場から離れた冷暖房完備の一戸建ての休憩所がありそこには家族様からいただいたマッサージ機も設置してリラクゼーションを感じることが出来る、親睦会として忘年会、新年会、各行事慰労会、納涼会など時期に合わせ懇親会を計画実行している</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>利用者のことを考え場面を計画したり実行した場合は実行してことを評価している、外出については利用者様にとって刺激にもなる企画と考えているため申し出ることを奨励している、月二回ではあるが希望の休日を申し出取得している、他に体調や家庭の都合などで変更も出来ている</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>紹介のあった介護支援専門員や家族様にはホームの見学に本人様が来られ入居される方のホームの印象を大切にしていたきたい旨をお伝えしている、実態調査に伺い直接ご本人様に生い立ちなどをお聴きして困っていること、不安と感じていることなどアセスメントを行なっている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>相談にこられた時、一番困っていることは何かをお聴きしている</p>	

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本所ではないサービスは職員で話し合ったり、地域包括センターや地域の方々にも相談して必要な支援が出来るよう努めている		
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじめるよう家族等と相談しながら工夫している	現在入浴拒否がある利用者様いらっしゃるが無理せずに少しずつ実施している、家族様には管理者が状況を説明報告し家族様が面会にこられた時など入浴のおすすすめをしていただいたり「入浴」を慣れていただけるようにしている		
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	昔の社会事情や遊びごとなどを思いだしていただき、職員にいろいろなことを教えていただく機会を作っている、他に唄や知識なども職員が学んでいる。笑わない日はない。		
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会にこられた時には本人様の良かったこと、喜ばれたことをお伝えしている、また、サービス提供が困難であるときの様子についても報告しサービス提供方法の変更や協力をいただけるようご相談しお願いしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	初期アセスメントの内容をしりホームを利用することによって以前より本人と話をする機会が多くなっているような場面も見受けられる、月一回のお便り、新聞、随時の生活状況などの郵送で本人様が安心して落ち着いて生活されていることをお伝えしている		
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の方の面会にはお茶をお出しして来客を歓迎する事を基本としており励行している。本人の生まれ育った地区にお墓参りに出向いたりしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	レクリエーションやドライブでの声かけをして多くの方が参加していただきコミュニケーションを取ることができるよう努めている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	退居された方に利用者様と一緒に面会に出かけたり行事にお誘いしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	三ヶ月に一回のアセスメントはもとより、日々の生活の中の何気ない会話に出てきたことは職員、管理者で準備が出来次第改善や希望実現に向けて実施している、		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントの内容に含まれており個人台帳に入っている、それは事務所に保管され個人情報の管理をしている、担当の月一回のお便りの発送と面会時での会話で家族様との馴染みが出来ている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員全員がケアプランに添った評価を毎日行い記録している。また、申し送りで職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員などが本人の思い、を聞き感じ取り、本人の力が生かせる生活や実行をプランに入れている、面会に来られる方は面会時家族様に説明し、内容について追加することなどお聴きしてプランとしている、面会の回数が少ない家族様については一年に一回くらいは家族様に訪問するが他は郵送し電話で連絡などで行なっている、		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は三ヶ月ごとにアセスメント、一ヵ月後とのモニタリングを行い見直しを行なっているが状態が変化した場合は状況を家族様に報告をして様子を見ながら時期に沿った計画を家族様に了解を得ながら立て直している		



様式8

項 目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録表、介護評価記録、一日3回の申し送りで日勤者三名、夜勤者に情報を共有して担当者がアセスメントに組み入れプランに入れている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や与薬のほか検診などオプション的なこと(検査食の提供など)や衣類、リネン類、雑貨類などの購入のことで家族様が出来ない部分を行なっている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事でのボランティアの踊り、施設では地域住民の協力、救命救急講習や災害避難訓練、集団健康検診の参加、市民会館の利用に際しては車椅子席の確保の協力を得たり行なっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	対応困難な場合はケアマネ同士相談しあっている。市役所、地域包括支援センターとも密に連絡を取り合っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域運営推進会議の都度相談に伺っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の変更は家族様の承諾を重要にしているため、かかりつけ医の変更の理由またリスクなども相談して承諾を得ている、本人様の状態の変化が生じた場合は主治医に報告し指示を仰ぎ、家族様にその旨を報告し家族様の希望をかかりつけ医に報告している、		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない</p>	<p>守秘義務の遵守の励行、個人台帳は事務室の書棚の中に取り生活記録表はフロアーの棚にその都度片付けている</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>プランに則りながら個々できる作業はお願いし、了解を得た上で手伝っていただいていることが殆どだが、利用者様が目に付きやすいようにセッティングして本人が「すすんで・・・」を念頭にしているそこで、できること、出来そうなことを確認している、三ヶ月に一回のアセスメントにも表記している</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している</p>	<p>毎日が本人の気持ちに合わせて散歩やドライブは利用者様のその時の状況に合わせて実施している。</p>	
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人から美容院をきぼうされる、美容院までは一緒に行くが美容院では本人に希望を店のかたに話していただいている</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>本人の希望のメニューを献立に取り入れたり食事の準備や盛り付け、片付けなども一緒に行なっている、誕生会の行事では宅配の弁当も利用したり雰囲気をかえ本人と職員が味わいながら食事をしている</p>	
55	<p>○本人のし好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>お酒は家族様からの希望で禁酒、禁煙されているためされていない。お茶はいつでも自分でも紅茶やお茶が飲めるように準備してる。</p>	

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	トイレでの排泄をその人らしいとしており、その人に合わせた時間を見て声がけている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が特別なことにならない、自宅でしていたように毎日入られる方も居る。体が痒い、とか本人が入りたいと希望された時など、いつでも入ることが出来るようにしている、毎日入らなくてもいいという方もいらっしゃる		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	レクリエーションの実施はしているが全員を強制するような雰囲気ではない、睡眠時間と活動時間のバランスも考え無理はしないで自ら・・・動くような働きかけを行ないながら時には本人の空間も大切にしている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	教育に従事していた方をお誘いして幼稚園に卒園式や運動会を見に出かけたり、幼児のサークルに出かけたり書や絵画がお好きな方には書道や絵画展に出かけたりしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持っていないと安心できない方は家族様と相談して本人管理していただいている、管理の難しいかたについては買い物に行った時その時に本人にお渡しして買い物を味わっていただいている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	ドライブや買い物には出かけているが一人ひとりその日の希望に添ってとは行かない、出かけるときは4人くらいででかけソフトクリームや味噌おでんを頬張ってワイワイ話し語りをして帰ってくる、歩行困難な方は車椅子で畑や花をみに出かけたりしている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している	行事で紅葉狩り、近所に観桜会、展覧会、ほか歴史資料館や施設。市民会館で催事があるときは外出するようにしている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はフロアに子機があり事務所に電話機がある。事務所はいつでも出入り出来るようになっており相手からかかってくることも多い、希望があれば電話をしている、手紙が本人が書けるようなときは書いていただいている、例;年賀状		
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の方が来られた場合は居室にいかれた場合は居室に椅子とお茶をお出しして面会を歓迎している		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束防止の研修に参加しているほか、一部をコピーして職員が見えるところに張り出している		
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	夜間、不安になり帰宅願望が見られ離設して以来職員が見守りに折れない場合は施錠する、日中は利用者様が自然に施錠する方居る。家族様のほうからもいつでもあけられるから心配と話されていることもあった。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はいつも職員間で声がけをして確認しあっている、夜間は二時間ごとの巡視のほかにも小さな物音や気配を感じたときは時間に関係なく見回って安全に配慮している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	はさみや包丁などはタオルに巻き高いところにおいている、手洗い洗剤は使用する方もいらっしやるため、利用者さんの危険を察知できるところに設置している		
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書に記入し事故発見時は即朝礼の場で報告検討し職員会議では対策をさらに話しあっている		

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変マニュアルがあり職員全員がめを通して。職員全員が救命救急講習を受けており防災訓練も行なっている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	災害避難訓練マップ作成され事態発生時には避難協力をいただけるともうしでを頂いて居る	○	地区合同避難訓練はこれから予定を立てていく必要があると報告を頂いている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居初期については契約時起こりうることについて予知をして傷害時の保険適応などについての説明をしている、身体変化に伴いリスクを随時または担当のお便り発行時説明をする書面を同封している、緊急の場合は家族様直接電話で説明相談を行なっている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	既往症に高血圧がある方については起床時、就寝時の二回は入浴前には血圧測定などで血圧の具合を脱衣時は皮膚トラブルについて外傷などを発見することが出来る、発見時は出勤職員はもとより管理者に報告の義務を架しており迅速に対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	生活記録表にそれぞれの薬の効能を書き入れ職員が把握している、また会議の中でも確認しあっている、受診時には本人のたいちょうについても記録して家族様に説明が出来るようになっている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	毎日排便チェック表を記入している、また3日以上排便が無かった場合は介護日誌に記入して管理者に報告し職員と生活について振り返り本人にとっていい方法を話し合っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝時前は声がけでほぼ全員行なっているが朝食後、昼食後は出来ていない	○	毎食後行なえるようにする

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表に毎日飲水量を記入しチェックしている。少ない方は職員に申し送りお茶をおすすめするか果物(みかん)で取っていただけるよう工夫している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	調理器具は毎日夜間乾燥機を使用している、食前の手洗いのほかオシボリはハイターの薄め液を湿らせたもので手をふいていたでいる、居室はここに加湿器を用意して使用している、フローアには洗濯物を干すなどして加湿に努めている、各感染症のマニュアルが準備されている、流行している様子があれば随時会議を開いて予防について話あつてい		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理方法はマニュアルがありその通りに行っている、調理器具は毎日乾燥機を使用している。使用している食材は毎日賞味期限をチャックし、一週間に三回の買い物に出ている。野菜は生ものを使用せず必ず熱湯を通すなど温野菜で対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は綺麗だけにこだわらずちょっと庭の花を見に出かけるときにはくツツカケなどをおいてはけるようしている。玄関先には植木などを置いて潤いを持っていただけるようにしている。また利用者個人で宅配していただいている牛乳箱もあり家庭的な雰囲気をかもし出している		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下にはカレンダーやかわいい柱時計を設置していつでも季節感や時間がわかるようにしている、廊下の飾りつけも季節に合わせて利用者様の馴染まれている折り紙などで飾っている・食事前には味噌汁の臭いがほのかに流れ食事の時間である事を知らせている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂部分と区切りソファとテーブルをおいて居間の空間を出している		

様式8

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時なじみのタンスや住み心地の良い家具を準備していただいている、仏壇を持ってきている方もいる。居室の壁には家族様が持ってきている壁掛けやカレンダーが張られている。姉妹で住まわれている方は一室を寝室に、一室はコタツ、テレビを入れて居間のように使用されている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のとどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中の掃除の時は一斉に換気を行い空気のとどみがないようにしている。また随時換気も行っている。居室それぞれに加湿器を設置しており加湿で体感温度を上げる工夫もしている、夜間は湯たんぽを使用して就寝も温まるよう支援している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室知れぞれに手すりが設置されており利用が安全安心して生活していけるようになっている		
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には個々の表札を準備してその都度自室である事をお知らせしている、ユニットにトイレが4個ありそれぞれ床には緑のマットが敷いてありトイレだと分かるようになっている、床面がバリアフリーになっており段差はないようになっている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に木製のテーブルと長いすがあり天気がいい日は利用者と職員が民謡を聞きながらコーヒーやお茶を飲んだり唄を歌ったりして過ごしている、居室前の草花にはいつでも水まきが出来るようにジョウロもおいている。少し行くと畑が毎日摘み取りできるトマトや胡瓜、ナスを植えて楽しんでいる。一休みできる部屋もある、		



V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼすべての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	<input type="radio"/>	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

様式8

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼすべての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・職員殆どが他の老人施設の経験がなく毎日を自分の領域以上の精神力で仕事に携わっている、そのために、認知症などの研修のないよう以外のケアについて戸惑っている利用者様が入居されてから介護度が軽減した方、進行せず二年間現状維持できていることは、職員の賜物と感じている、(入居して二年、そろそろ症状が眼に見えて進行の症状が現れてくると介護の技術面で、予め介護研修を受けたとしても実際に体験していないため不安になっているようだ) 笑いは何物にもたえ難い良薬、一日に一回は職員と利用者さまが大笑いする、を実行している。

# 自己評価書

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取組を行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めてください。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- グループホームの自己評価は、各ユニットごとに行います。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日ごろの実践や改善への取組を示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支え合い	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取組の事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取組状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかにかかわらず事実を記入）

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○を付けます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取組内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	あったかいごふるかわ
(ユニット名)	そよかぜ
所在地 (県・市町村名)	宮城県大崎市古川駅前大通6-3-8
記入者名 (管理者)	菅原さよ子
記入日	平成19年12月27日

地域密着型サービス評価の自己評価書

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくり上げている</p>	家庭的な雰囲気です本人の持っている力を出すことができるような方法を職員が工夫検討して実施し、効果に対し本人と喜び合い信頼関係を作っている、介護の評価は毎日担当、(休日の場合はほかの職員)が記録している	
2	<p>○理念の共有と日々の取組</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	朝礼を毎朝稼働前に行っていて運営方針を確認しあい当日の予定、受診、行事、買い物など他に利用者の特変や前日にあった事故報告、職員からの質問や思いを伝えられる場になっている	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	月に一回、担当の職員がその月の本人の様子についてお知らせしている、他に新聞で本人の様子が分かるよう写真を掲載した新聞も同封している、夏祭りなどでは地域の方々にも地区の回覧で参加の呼びかけをして近隣の住民が子供連れで参加してくれた	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所との付き合い</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的な付き合いができるように努めている</p>	ヨーグルトやジュース、飴やせんべいなど買い物はいつも同じ店にしている顔が馴染みになっている、利用者様のことを知っている方々も多く毎回声を掛けてくれる環境にある	
5	<p>○地域との付き合い</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地区の自治会にはいって地区の行事の知らせを地域運営推進会議以外でも毎回知らせていただいている、快く行事に参加して地区の皆さんにも顔を覚えていただけるようまですなっている	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティア友の会や地区会長さんにホームの見学などに来ていただくようお願いしている、家族様に認知症の方がいらっしゃるには遊びに来られるよう伝えてほしいと伝言して来てくれた方は、利用者さまの笑顔に涙されていた		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	本人様が安心して住みやすい居住にしているために自分たちが行なっていることが大切であると理解して、本人の希望が叶っている生活であるかその様子は毎日介護評価を記録してを振り返る機会になっている		
8	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	義務付けられている期間通りに開催している、ホームでの生活の様子を報告して本人が地域の行事に参加できる行事を紹介していただき参加している、		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	本人の家族様の悩みについて必要な相談を市町村に出向いたり地域運営推進会議が終了してから相談する場合もある		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者のお二人が成年後見制度を利用している、後見人は月一回、本人と面会して理解はしている、「高齢者の虐待予防」研修にも参加して学び、他の職員にも研修報告をしている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	ユニットで19年には二回研修に参加している、行政から配られたチラシをユニットに張り出してお互いの‘おやっ’と思われることについて管理者に報告しユニットでカンファレンスを行い自分たちが行なっていることが虐待になっていないかを振り返り防止に努めている		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員及び外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聴く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者がなじみの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取組</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者、管理者は研修参加を奨励しており経験年数や技術レベルにあった研修に参加しやすいところでの研修は欠かさず参加している、その月以内に参加した職員が研修報告をユニットの会議で行なっている</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている</p>	<p>GH協の取り組みなどには積極的に参加しており、相互研修では近隣のGHに2名参加して、他のホームのいいところや自分ホームのいいところを確認したり、ほかのGHの管理者が2名訪問に来てホームを評価していただいたりした、ホーム独自の行事に近隣のGHの職員が来て余興をしてくれたり交流をしている</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取組</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の休憩所はホームから別棟になっていて、家族様から寄贈されたマッサージ器、ストーブやエアコンの設備、流しやレンジ、テレビも設置されソファーに横になって休めるようになっている、懇親会も行事ごとに会費は一部会社負担で実施している</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取組</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は常に管理者や職員の様子について把握に努め、管理者が働きやすいようホームの管理を任せている、管理者は職員のアイデアに興味を持って聞き入れ悪しからず、以外の事については(利用者様にとって良いこと)喜んで実行するよう協力している</p>	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>ホームの見学のときは身体的機能とホームの印象がどうだったかを知り、実態調査に伺った時は生活歴や本人の友達関係などを表情を見ながらセンター方式に則りアセスメントをしている</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている</p>	<p>見学时、管理者が対応し事務室でいま困っていることをお聴きしている、見学も在宅の様子を聞きながら、申込書を持ってきていただいた時もホームでの生活の方法を伝え家族様の現在の困っていることを引き出している</p>	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	かかりつけのケアマネジャーが相談に見えたときから利用されているサービスについての確認をしながら、本所で安心していただける方法について内容を家族様、ケアマネと話し合っている		
26	○なじみながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になじみながら徐々に始めるよう家族等と相談しながら工夫している	初めて集団生活のかたの場合、いきなり居室に行かず2週間くらい、和室に職員が添い寝をし、居室に行っても一ヶ月くらい添い寝をして人と建物に慣れていくことから初め、入浴も2ヵ月後くらいから開始、1年後に漸くパジャマに交換していただけるようになったという様に練れていただくことから初め、信頼関係を大切にしている		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支え合う関係を築いている	家事、料理など昔ながらのことを炊事をしながら教えていただき、散歩では昔の時期のそ地域の様子を教えていただく一コマがある、本読みをしたり何気ない利用者様と職員の会話から笑いが出たりしている		
28	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者間の変化については面会時など状態の変化を報告し一緒に喜びあう機会がある、		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	見学や入居前のアセスメントでの確認して在宅時の本人と家族様の関係を理解したうえで、ホームでは安心した生活を介護計画をたて支援し月一回のお便りでの様子報告を行なっている		
30	○なじみの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまでお付き合いのあった本人の知人宅には行き返りの送迎を行なったり、知人様から外泊の希望が出された時は快くお願いしている、また本人の誕生日などはなじみの場所や人に会うことを計画したりしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士がかかわり合い、支え合えるように努めている	風船バレーなどのレクリエーションは多いに楽しまれており実施の回数も多い、行事にもミニ運動会も計画して行なった全員が楽しんだ		



項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らない付き合いを大切にしている	面会や行事にお誘いしたりしている、季節の礼状を出している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで本人の思いを記録のほかに入浴、や外出、排泄の時などにも本人の思いは出される時がある、その言葉は職員に申し送られ、介護評価記録の特記に記載しプラン作成に生かされるようになっている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴やなじみの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントのほか家族や知人の面会があったときは関係やその時の様子などをお聴きしあいに行くなどの本人にとっての新たな目標にしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その日の過ごし方について、その人らしく、プランどおりに支援できているか毎日評価している、		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアの在り方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	、本人が楽しく生活できるよう職員全員が関わりあいながらきずいたことをその都度記録表に記入、当日の職員に申し送りを行い実行できることであれば試行してみて継続可能である事は介護計画にいている、		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	三ヶ月に一回のアセスメントを実行しているが状態が変化した場合は先ず家族様に状況を報告し、医師の指示を仰ぎ家族様に相談をして家族様の意見も入れた計画を作成している、また、計画について了解を得ている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	排泄や飲水量、食事の様子、入浴、リネン交換の有無は生活記録表に記載し計画の評価は介護計画評価記録に記入している、計画にないと特変については特記に記入している、申し送りでも情報の共有を行っている		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が遠方に在住している利用者様や家族様が高齢になって身の回りのものや受診などの代行を行なっている、(納税にも行っている)行事では普段いけないところに出かけたり、結婚式場で宴会をしたり当たり前の雰囲気を味わっていただけるような行事もおこなって居る		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署より避難訓練の際に利用者も一緒に参加している市の文化祭は毎年観賞に行っておりその際は利用者職員の席、車椅子の席の確保をいただいている、誕生会やそれ以外にも踊りのボランティアがきてくれる		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人が入居してからも本人が安心して普通の生活が出来るように以前のケアマネに相談をして以前の生活で行っていた付き合いなどその家族様の協力も得たり本人らしさの気持ちの継続ができるような支援を行っている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人の生活が他の人たちに迷惑がかからないようにと家族様が相談にこられ地域包括支援センターに協力を得て家族と進めていることもある		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はそれまでかかっていた医師を前提としているが家族様の希望をお聴きしてそれに添っている、受診には職員が同行して生活の様子、精神面などを報告し不安なことは医師の支持を仰いでいる、特変があった場合は即座に報告を行い指示があれば即受診や救急車で搬送も行なっている		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期の在り方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない	個人対応のケアを努めている、本人それぞれが一番と感じていただけるように時には、本人の話はそっと・を努め、他の利用者さまに気を使いながら対応に心がけていることもある、利用者様の精神的な様子は職員の申し送りで徹底しており個人台帳は事務室には保管している	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働き掛けたり、分かる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	認知症が進行してきても行き付けの美容院やスーパーへは通い、普段どおりのヘアの注文が出来るように見守っている、一方的に差し出さず声を掛けながら行っている、	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	利用者様の個人の買い物を随時近くのスーパーに徒歩で買い物に出かけ、本人がレジでのやり取りを行いフォローを職員がしている、外出を希望されている時は隣のユニットにも相談をして出来るだけ希望に添うよう心がけている、	利用者で入浴、排泄でどうしても職員の手が足りなくなっている、パートタイマーなどの採用やボランティアさんの参入を進めていきたい
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理美容は本人の行きつけに行っており充実している、本所での毛染を希望されている方には希望おどり入浴以外にも対応している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事には配食弁当を注文して弁当の内容を語り合ったり、時にはコース料理を順に食べられる行事を楽しむ機会を作っている、常に野菜盛りや盛り付け、片付け、食器洗いや食器拭きを職員と一緒にしている	
55	○本人のし好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者の好むメニューの聞き取りを行っており一週間に一回は利用者の好みの献立としている、喫煙を好まれる方にはライター、タバコをお預かりしており申し出時喫煙できる	

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排せつの支援 排せつの失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排せつのパターン、習慣を活かして気持ちよく排せつできるよう支援している	入居前リハP使用されていた方がサインの見極めや定時の排泄誘導でムノパンツになっている方もいる、夜間もPWを置いている方は1名のみ他はとれでの排泄を進めている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	予定は立てている、その日の利用者様の希望にいつでも添えるような環境にある、また必要に応じて入浴も随時行なっている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その人の生活の継続を大切にその生活と身体の状態に合わせている、また傾眠や倦怠感などが見られるようなときは本人に伺いながら自室で休んでいただいている、夜間は湯タンポを布団に入れ足元が暖かくして休んでいただくようにしている		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴にあった縫い物や将棋などを準備している、食堂で働いてきた方は炊事や掃除をすすんで行なっている、TVの活字を読んでいるのを見て職員の古い絵本でお話し語りをしていただいたりしている、週一回の移動パン販売ではみなさんが喜んで買い物を行なっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談をして生活歴からお金を持っていた安心される人については小額でも財布とお金を持っていたりしている、移動パン販売せんべいやヨーグルト単品の買い物に出かけている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出掛けられるよう支援している	玄関前の木製テーブルと長いすが常置している、季節の空気を感じていただけるよう暖かい日はお茶やコーヒーを飲んで大きな声で民謡を歌ったり秋になれば冷たくなって空気を感じている、冬は雪をかぶった車の行き交いを見ることもしている、隣のユニットで出かけるときは声を掛けてもらい外出している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出掛けられる機会をつくり、支援している	本人の誕生日行事には一日をその人のために本人が行きたいと話していたところ、松島の瑞岩寺や塩釜神社、お墓参り、本人の実家方面にいてファミレスでの食事、他にも妹様のお宅へお茶飲みに行ったり、お世話になった方へ挨拶に行ったり外出外食をして楽しんでもらっている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	キッチンに子機があり本人お部屋に持っていけるようになっており電話はいつでもできる、ハガキや切手も準備しておりいつでも対応出来るようにしている、代筆を頼まれて行なってもいる		
64	○家族やなじみの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人のなじみの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	どなたの訪問も歓迎しており、接客マナーは会社で2年間受講している、お客様へのお茶と居室へ客用の椅子の準備を職員全員に奨励している、お客様がホールを希望された場合でも同様で茶たくやソーサーは必ずつけている、スリッパは失礼のない上品なものを用意している		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止の研修を19年には二回受講している、パンフレットもあり職員が回覧して読んでいる、一部は拡大コピーをして職員の目の付くところに張っている、ケアカンファレンスで自分が気になっていることを話し合い身体拘束に当たるかどうかを検討し確認し合っている		
66	○鍵を掛けないケアの実践 運営者及びすべての職員が、居室や日中玄関に鍵を掛けることの弊害を理解しており、鍵を掛けないケアに取り組んでいる	外に出たがりの利用者様がいらっしゃるため施錠をやむなくしていた、家族様にも理解を求め了解を得ていた、事務所に頻会に出入りは行なっているが現在は玄関を開けなくなった、感知センサーは置いている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は全居室を見渡せるところに位置してとっさの場合や排泄のために居室から出てきた場合など迅速に対応出来るようにしている、また排尿で離床のたびに転倒が気になる方については靴に鈴をつけたり工夫をしていた		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取組をしている	入浴洗剤などは体洗いと髪洗いが分るように印をつけている、刃物類は手の届かないところにおいているが、必用な時は取り出せるようにしている		
69	○事故防止のための取組 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書の提出を指導している、報告のあった事故内容はケアカンファレンス内で対策の確認をしている、緊急性のある物については朝礼の席で注意を対策の確認を行なっている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、すべての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命受講を全員が受講している、急変マニュアルを準備している		一年に3回程度は定期的に予定したい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろから地域の人々の協力を得られるよう働き掛けている	今年度は夜間想定防災避難訓練を消防署立会いの下実施した、地域運営推進委員会において、自治会総会においても災害時の協力をいただけるよう要望し了解を得ている、災害時の避難マップを作成していただいた		回数を増やしていざと言う時に備えたい、地区内での避難訓練の計画があると聴いている
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者様の変化はケアの変化でもあるためその都度報告を行い家族様面会の時においても詳しく説明了解を得るようにしている		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	全身の皮膚、打撲、打ち身観察、発熱、高血圧などの観察は入浴時に全身を見て回る、日中はもとより起床介助、就寝介助の際行う、発見した場合はリーダー、管理者への報告を指導しておりうけた管理者は主治医に報告して指示を仰ぎ、家族様に報告している、継続的なものは継続中としている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の薬の効能は生活記録表に毎週転記しており、薬の内容が変更になる場合は医療情報が回覧される、職員会議でも変更になった方については報告がある		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働き掛け等に取り組んでいる	排便状況記録があり便秘の習性になっている方については主治医に相談をしていき指示をうけ、他の方が便秘になってしまった方については水分の補給や繊維物をおやつや食事の間に提供したり薄めのセンナ茶を使用している		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後居室で歯磨きを行なっている		

項目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活記録表にその都度の飲水量を記入して職員に申し送りをしておりトータルで少な目の方にはお茶のおすすめのほか冬はみかん、りんごなど夏はアイスなどを吞んでいただいている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員利用者様、面会に外から来られた方にはうがいと手洗いの励行をし、入浴ごとあるいは就寝、起床時にはその都度交換を行なったいる、食事前はハイターの薄め液で洗った台拭きでテーブルを拭き手洗いのほかオシボリも同様に行なっている、使用したものは再度ハイターにつけ感想は除菌乾燥を行なっている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は温野菜を使用して生は出していない、まな板包丁はさみ、残渣入れカゴ、排水のカゴも毎日ハイター消毒している、冷蔵庫内も毎日日限を確認しながら除菌清掃を行なっている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前のベンチはゆったりとしている、たてももの外には花壇があり近くの店に来たお客さんも花を見たり掛けたりするくらいいつも花を植えて四季の花を楽しんでいる、畑は近くの散歩に来られた人でもつんで行けるようなミニトマトや胡瓜を植えて楽しんだ		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	二面が開いている和室があり人の声や顔、テレビや台所なども一望に見えるようになっている、台所からは調理の臭いが自然に流れ、調理している様子がすっきり分るようになっている、壁には季節の花を飾ったりしている、正月は玉飾りをしたり、備え餅を作ったり飾ったりしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には2人用の座卓がありいつでもごろごろ出来るようになっている、また一人掛けのソファがあり誰でも腰掛けられるようになったている		



項 目		取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	最も本人らしさ、家庭環境が出るのは居室と考える、見学から入居前の案内で古いタンスでもいいので馴染みの物をお持ちいただけるようにとお願いするが日用雑貨店からプラスチックのタンスを持ってこられる方が多い、ゆえになじみのものはホームで生活して使用しているものになってしまう、食器でさえ新しく購入してくるようだ		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ホームの換気は離床介助の際に一斉に行なっている、便失禁の際は空調を最大限にしている、トイレに窓が無いため臭いの元を立つようにと床はハイターの薄め液を使用した雑巾で隅々の清掃をしっかりとっている		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、脱衣所、浴室には手すりが設置している、トイレの手洗い台は人によっては立ち上がりに使用する手すりになっていることもある、ベットの柵は捕まって起きられる人にとっては大切は物となっている		
86	○分かる力を活かした環境づくり 一人ひとりの分かる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室には利用者様の表札が全く違う形で作られている、トイレは床が緑色のマットを埋め込んでいて場所を分りやすくしている、お風呂は常に暖簾を掛けている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	職員が休憩所としている家は利用者様と職員の行事に使用したり避暑や気分転換にお茶飲みで使用することもある		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる	○	①ほぼすべての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出掛けている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼすべての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼすべての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼすべての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)